

望岳山荘

にて

—中嶋雄雄

この夏は、八月上旬の数日間しか松本の望岳山荘に過せなかったことを惜みながら、東京に残っていた仕事を済ませて、私はヨーロッパへの旅に出た。現代中国に関する日仏共同研究の打合せと、デンマーク北端のオールボーグ大学で開かれるヨーロッパ思想学会での「ヨーロッパと中国」というパネルの報告のためであるが、仕事の合間にあちこちで音楽会を楽しんだり、田舎の町でスケッチブックを広げたりするひとときが私にとっては何よりの憩いになる。

この都市でも最も美しい一角、サン・ルイ島の教会でバッハとヴィヴァルディの室内楽を聴いたが、オーボエのソロがとてよかった。夜の八時四十五分から始まるコンサートが終ったあとは、サン・ルイ島通りのレストランでゆっくり食事もできるのだし、チケットは上席で二〇フラン(約三千円)なのだから、その雰囲気を考えればかなり安いことになる。

デンマークでの学会をひかえた週末はウィーンで過ごしたが、モーツァルト時代の衣装で演奏することで日本でも人気の高いウィーン・モーツァルト・オーケストラの「音楽アカデミー」をコンツェルト・ハウスで楽しんだ。「音楽アカデミー」というのはロココ時代の一つの演奏会形式で、「フィガロの結婚」や「魔笛」、交響曲四十一番シジュピターの第一楽章やピアノ協奏曲第二十番のロンド、それに私もよく弾くアイネ・クライネ・ナハトムジックなど誰でも知っている曲の個別楽章を選んだアンソロジーである。ソプラノのモンティエルとバリトンのヴェルナーのデュエットや指揮者のルデュイツァーのピアノ・ソロも素晴らしく、この夜は最上席しかチケットがなかったが、それでも四五〇シリングだから約五八〇〇円である。

ようど八月中はザルツブルグ音楽祭だったからである。私はもう何回かこの音楽祭に来ていたけれど、日程上、いつも夕方近くに着くの、その夜のチケットが入手できなかったことは一度もない。郊外のヘルブルン宮殿でのコンサートなどは、

ザルツブルグでの想い

フェスティバル・ハウスではポリーニのピアノ・ソロが八時半から始まるという豪華版だったけれど、ポリーニは、先般、ウィーンで聴いたので、その夜はザルツブルグ城でのザルツブルグ・モーツァルト・アンサンブルのモーツァルトとベートー

いるけれど、演奏は大変真摯なもので、チケットは二七〇シリング(約三千五百円)といつもより割高ではあるが、ホーエン・ザルツブルグ城からの夕景を久しぶりに堪能できたことを思えば十分に満足できる。

コンサートが終って町を散策していると、優雅に着飾った夫婦や家族連れにあちこちで出会う。近くの村や町からやって来て、コンサートのおとの飲み物や晚い食事をとって帰って行く姿が印象的だった。

日曜の夜のザルツブルグは、こうして夜半までレストランやカフェが開いており、アフター・コンサートがまた楽しい。

松本も世界に知られる音楽都市を目指すのなら、是非このようになつてほしいものであるが、そのためには森があつたり、清流があつたり、松本城の一角や繩手通りを中心の女鳥羽川畔、それにカザルス像がある才能教育会館周辺の深志公園などが中町、本町、伊勢町、上土、緑町などともにもっと活かされなければならぬ。

そしてなによりも、夏の一夜を松本で過ごせば、あちこちの大小のホールで演奏会が開かれていて、どんな名演奏でもせめて三千円から五千円程度でチケットがいつでもすぐに入手できるようにならねばならぬ。そして、この点は松本に限らないであろうが、そのようにするためには、

(東京外語大教授)